令和７年度 第１回白馬高等学校学校運営協議会 議事録(概要)

1 日　時　令和７年(2025 年)４月 21 日（月）　　13 時 30 分～15 時 00 分
2 場　所　白馬高校会議室
3 出席者　委員 14 名　　以下敬称略

・相沢さつき(同窓会副会長)
・武田彰代(大町市立美麻小中学校講師 元白馬村教育委員長)
・太田伸子(白馬村議会議長)
・草本朋子（白馬インターナショナルスクール理事長)
・笹川陽子(め・ぞんど・ささがわ)
・松澤忠明（PTA 会長)
・白戸 洋(松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科教授)
・中村和彦（白馬村立白馬中学校)
・丸山俊郎(白馬村長)
・中村義明（小谷村長)
・北村幸治(白馬山麓事務組合事務局長)
・石川順三(白馬高等学校長)

欠席委員
・柴田友造(小谷村議会副議長)
・小林かおる(小谷村立小谷中学校長)

その他の出席者
・武田一弘(高校教育課高校再編推進室企画幹兼課長補佐)
・宮嶋直美(高校教育課高校再編推進室主任指導主事)
・白馬村・小谷村副村長
・白馬山麓事務組合白馬高校支援係局長補佐、主査、白馬高校魅力化コーディネーター
・白馬高等学校教頭、事務長

4　次 第

(1) 開会の言葉(藤森要白馬高等学校教頭)

(2) 長野県教育委員会挨拶(武田一弘高校教育課高校再編推進室企画幹兼課長補佐)

○今年度は 21 名の県外生を含め、70 名の新入生を迎えてスタート。国際観光科は、昨年に引き続き定員を超える募集があり、普通科においても昨年度と比較し大幅に入学生が増加したと聞き喜んでいる。地元の白馬中学校、小谷中学校からの入学者も増え、全校生徒 160 名を超える生徒数となり、これまでのさまざまな取り組みの成果であると感じている。

○国際観光科を新たに設置し全国募集を始めてから、今年で 10 年目という節目を迎える。地域と連携した活動は、地域高としてパイオニア的な存在であると考えている。中学生や保護者の方に直接白馬高校の魅力を伝え、具体的な活動を進めてきたことに関して深く感謝をしている。

○今年度から、寮の運営や全国募集に関する経費に対し、県で一部補助をしていく取り組みが新たに始まっている。

○高校授業料無償化の所得制限が廃止され、来年度からは私立加算額も引き上げられるなど、「生徒が公立高校から私立高校へ流れるのではないか」という懸念がある中で、県立高校の特色化に関する方針に基づき、現在、各県立高校においてさらなる学校の特色化の方向性を検討している。継続的に実施できる体制整備、生徒企画による高校の特色化・魅力化事業にかかる予算を今年度から３年間確保している。

○白馬高校では何年も前からこのような取り組みが進められ、特色のある学校であると認識している。今年度以降も学校、生徒、地域が連携し、白馬高校の魅力を推進し、発信をしていってほしい。

(3) 学校長より挨拶（石川順三白馬高等学校長）

○先日行われた入学式には 20 名ほどの来賓をお招きした。それほど地域に愛されている学校であると実感している。

○今年は国際観光科 40 名入学。倍率も１倍を超え、地元白馬・小谷中出身者が 16 名。普通科も 30 名でそのうち 22 名が地元出身者。計 70 名が入学し、職員ともども張り切っているところである。

○県立高校の特色化スタートアップ事業や高校生による魅力化プロジェクトなど、他の高校でも取組が見られるようになってきた。本校においては、地域の方のおかげもあり、ある程度、特色化が見えている状況である。今年度は、スタートアップというよりは、ボトムアップあるいはブラッシュアップをする機会になると思う。

○探究学習においても、より進化した探究活動ができるとよいと思っている。地域の方からもアイディアやサポートをいただきながら進めていきたい。SDGs 関連の学習についてもさまざまなご協力をいただければと思う。

(4) 委員の紹介（略）

○会長・副会長選任

○互選により白戸委員を会長に、武田委員を副会長に選出。全員一致で承認。

(5) 審議事項

①学校より現状報告と学校経営方針・組織編成・教育課程についての説明・提案

＜石川校長＞

○Ｐ４「学校運営協議会規則」は昨年からの変更なし

○Ｐ６「本校の現況」。今年度は 70 名が入学。「在籍生徒数の推移」において令和 7 年度は 165 名。地域の方の支えにより、徐々に増加傾向にある。「出身地別入学者の推移」については、地元小谷中・白馬中からも多くの生徒が入学。

○Ｐ７「科別・出身地別内訳」について。普通科入学者 30 名の内、小谷中・白馬中出身が 63.3%。国際観光科も昨年度 26.8%に比べ、42.5%が地元出身である。入学生全体（70 名）の内訳は、45.7%（32 名）が小谷・白馬出身。県内他地区からの出身者も増加。県外生は、遠くは四国、九州出身の生徒も入学している。

○Ｐ８「在籍生徒数 男女比」について。今年度は男女比のバランスがよい結果となっている。「部活動加入状況」に訂正あり。１年生の加入率は「89. 7%」ではなく「111%」。掛け持ちも含まれているが、部活に加入している生徒が多く、大変よい傾向になってきていると感じている。

○Ｐ９「寮生・下宿生」については、後程詳しく説明。兵庫、香川、福岡などからも入学していることから、関西方面への広報が功を奏していると実感している。寮生 64 名。嬉しいことではあるが、今まで二人部屋だったのが三人部屋になるなど、悩みが出てきている状況。「８ 学校説明・相談会等の日程」に関して、先輩にあたる生徒が学校説明会に参加する方が、効果があるのではないかと感じている。

○Ｐ10「９ 今年度の主な取り組み」について。高校生ホテルは本校の強み、売りの一つでもあるので、今年度は実施していきたい。観光政策と観光地比較実習も継続して行う予定。

○Ｐ11「DX 活用の推進」について、昨年度 DX ハイスクール推進活用事業に応募し、昨年度１千万円、今年度 500 万円の予算の中で、DX 化を進めている。昨年は 3D プリンター、DX 教室を整備した。今年度は検討中だが、できればそうした設備を生かした地域学習が提供できればと思う。海外留学・海外研修も実施しているので、研修内容の発表する機会もあるとよいと考えている。

○Ｐ12「卒業生 進路決定先」について。四大へ進学する生徒も着実に増えている状況である。

○Ｐ13 は過去５年間の「進路状況一覧」。

○Ｐ14「令和７年度 学校経営方針」について。「３つの方針」を目指していきたいと考えている。

○Ｐ15「令和７年度の校内体制」は、記載してある通り。それぞれの係に、重点目標に向かう具体的な指標を出してもらっている段階。

○Ｐ16「組織編成図」の大きな変更なし。

○Ｐ17、18「教育課程表」について。本校の売りとして、普通科も国際観光科もできるだけ同じような科目が選択できるようにしている。観光英語や北アルプス学など、科に関係なく履修することができる。

＜白戸会長＞
○ご意見・ご質問はあるか。
○令和７年度の経営方針および組織編成、教育課程についての承認。

②山麓事務組合より支援事業の内容及び予算についての説明・提案
＜北村局長＞
○Ｐ19「白馬高校支援体制図」は今までと変更なし。人員の入れ替わりが若干ある。白馬山麓事務組合の理事として、小谷副村長の竹内浩平氏が５月１日より就任。
○Ｐ20「予算の概要」について。予算の概要は「学生寮」、「公営塾」、「全国募集・高校支援」の３つの柱で構成されている。令和７年度は予算 199,809 千円。前年度と比較すると 123％増加。増加の主な要因は、人件費、物価の上昇など。「公営塾」の予算が 22,120 千円。講師３人分の人件費、基礎学力支援、英検等の補助金などが含まれる。「学生寮」関連は、144,496 千円。寮管理業務や運営にかかる費用が含まれている。「全国募集・高校支援」の予算として、33,193 千円。派遣職員の人件費、情報発信や全国募集の広告、グローバル講演会の負担金、地域みらい留学負担金など。その他として、高校支援事業の予算には含まれていないが、地域おこし協力隊をコーディネーターとして配置。
○「寮運営方針」の大きな変更なし。基本方針として自立心や協調性、人間的な成長を促すことを目的としている。
○「寮、みなし寮の連絡会」については高校と定期的に情報共有の場を設け、寮生がよりよい生活を送れるよう努めている。
○「指導」に関しては、寮関係者全員で注意を払って指導を行っていくが、先生方の生徒指導も必要不可欠ということもあり、ともに連携しながら生徒と向き合っていきたいと考えている。
○Ｐ22「年度別入寮生徒」は、令和７年度の入寮者が 32 名。現在の入寮生徒の内訳は、49 名が県外、23 名が県内出身者である。
○「白馬高校募集活動の年間スケジュール」について。スケジュール上段は白馬高校主催のもの、中段は「地域みらい留学」主催のもの。オンライン、対面合同説明会を開催予定。独自開催としては東京、名古屋、大阪等で実施予定。昨年度オンライン説明会が好評で、手ごたえを感じたため、今年度はオンライン説明会の回数を若干増加させた。一方で独自開催に関しては減少。開催地域を厳選して行っていきたい。
＜白戸会長＞
○ご質問・ご意見はあるか。
○令和７年度の計画についての承認。

(5) 意見交換
＜白戸委員＞
○生徒募集も含め、今後の学校の魅力化についてポイントをしぼってご意見いただきたい。
＜丸山委員＞
○支援事業Ｐ20 の情報発信について。全国募集のみならず、学校が取り組む魅力的なプログラムについて、地域の人たちにぜひ紹介してほしいと思う。ネガティブな情報が広まりやすい中で、白馬高校生が元気にやっている姿を発信してほしい。例えば、ダンス部で好成績を残していることや北アルプス学、また地域ボランティアやイベントへの参加など、地域の皆さんにそうした活動を広めてもらえると嬉しい。
＜笹川委員＞
○Ｐ９「学校説明・相談会等の日程」について。公開授業が年２回開催されているが、保護者だけでなく、地域の方にもっと足を運んでもらう機会にするとよいのではないか。地域の方の関心が高まり、協力も得られやすくなると思う。
＜武田委員＞
○前回の協議会で、白馬中が行うインバウンド学習について言及があったと記憶している。インバウンドというと、「土地が高くなり、村を捨てて出て行く人が増える」などあまり良い話は聞かないが、そうした中でも中学生がインバウンドの人たちをプラスに考えて、頑張っている。そうした動きを高校にもつなげていき、中高で一緒に考えてもらえるとよいのではないか。協議会で高校生が

発表をしたときに、「留学をしなくても白馬で英語が学べる」とはっきり発言していた。そうした考えを前面に出していくことで、他の国から来た人たちと一緒に学んでいけるということを示すことができるのではないかと思う。

＜中村（和）委員＞

○附属中学校のような形が理想だと思っている。中学校で学んでいる内容をさらにバージョンアップしたものを白馬高校で行っているなと感じていた。今年から高校のコーディネーターが中学校にも来ているため、いろいろな情報を互いに共有できるようになった。今後は高校生と一緒にできることが増えるといいと思っている。今年は英語の特色化に力を入れ、総合的な学習においても地域の人たちと関わっていこうと思っている。高校ともさまざまな場面で連携できればと考えている。昨年度から始まった教員同士の交流も大切であるし、進路講演の際、高校生がとても良い姿でよい話をしてくれたことがありがたかった。今年もそうした交流をお願いしたい。

＜白戸委員＞

○若い人たちがどのくらいから進路を決め始めるかを調査したことがあるが、大学生ではもう遅く、高校の時点で進路の方向性が決まっていることが分かった。もしかしたら現在は中学から高校に入る時期が一番大切なのではないかと思う。中学生のときに、素敵な高校生に出合い、先輩が地域にどのように向き合っているか見せることは、中学生にとってメリットがあると感じている。一昔前までは他所に出ていかなければ新しいものに出合えない世の中だったが、今は情報の発展もあり、やる気になればどこでもいろいろなものに出合える。逆に、そこでしか出合えないものもある。そう考えると、より具体的に中学と高校が連携することは、地道ではあるが、一番効果的な方法だと思う。

＜草本委員＞

○寮について。来年以降、拡大する必要性があるのか、又は使い方の工夫次第で何とかなりそうなのかを教えていただきたい。

＜丸山（支援係）＞

○現在はPalHouse男子寮、女子寮、おおしも寮を借りている。余力としては15名程度。下宿を広く募集していくか、４人部屋にするか課題となっている。

＜松澤委員＞

○スペース的に無理ではないか。

＜丸山（支援係）＞

○全国募集の状況を見ると、来年度も確実に希望者がいる。中学２年生の保護者も大勢説明会に参加しており、30名程度は来るのではないか。新しいスペースがどこにあるかは、見つけられていない状況。

＜中村（義）委員＞

○自治体が直接関わってくる課題だと思う。白馬高校に対し両村がすでに予算を出している中で、これ以上寮生が増えるとなると、予算等のさまざまな問題が絡んでくる。募集の成果がある程度出ていると思うので、続けるべきだとも思う。両村がタッグを組んで、どこにお願いするべきかを話し合い、協力体制を整えていきたい。

＜丸山委員＞

○新しい寮を建てるのは現実的ではないため、下宿を増やしていく形になると思う。財源についても今後のことを踏まえた上で、話を進めていく必要があると感じている。

＜松澤委員＞

○県からも補助が出るということだが、もっと支援をいただきたいというのが個人的な意見。人数的なことを考えると、必要なものはお金だろうと思う。白馬・小谷からこれ以上負担するのは両村民の納得が得らえるかということにつながってくる。そうなると苦しい部分もあるので、やはりいろいろな方法で財源を見つけてくる必要がある。たくさんの人が来る（インバウンド含め）ことで白馬の認知度が上がり、高校生が来て、そこからまた世界につながっていくことになれば、こんなに素晴らしいことはない。皆で知恵を出し合いながら協力できたらと思う。

＜白戸委員＞

○全国の自治体が、若者の定着や呼び寄せる取り組みをしている。まず地域の名前を覚えてもらうところから始めているということを考えると、予算などの難しい課題もあるが、チャンスでもあると考えるべきかもしれない。協議会でも知恵を出し合って取り組んでいきたい。

＜中村（義）委員＞
○全国募集を始めてからの卒業生がどんな活動をしているかは把握しているか。
＜藤森教頭＞
○卒業生に関して、県外生の定着率はない状況。卒業後、何をしているかについても学校側で情報を掴んでいないのが実情。
＜中村（義）委員＞
○個人情報の関係もあり難しいと思うが、卒業生が今どこで何をしているのか、どんな活動をしているのかを把握することも大切なのではないかと思う。
＜松澤委員＞
○卒業生がどこで何をしているのか、どんな活躍をしているのかといった情報を集めるのは同窓会の役割かと思う。アンテナを張っていき、卒業生の話を聞けるように働きかけていきたい。卒業生が情報発信をしてくれる可能性もあり、大切なことだと思う。同窓会としても把握できるような形を作っていきたい。
＜白戸委員＞
○調査をすると、大学を卒業して県外に出た卒業生は、10 年くらい経つと戻り始めている。８割程度は地元に戻ってきているように感じる。40 歳ぐらいを機に帰ってきて、会社を起ち上げる、起業するということが見られる。これから卒業生の動きの把握が大切になってくるのではないか。
＜武田委員＞
○SDGs を始めた３人は現在どうしているか。
＜草本委員＞
○１人は岩岳でスキーパトロールをして、ネパールの山を登ったりしている。残り２人の近況は分からないが、活躍していると思う。信州大学医学部に入学した生徒も、白馬にスキーをしにたまに来ている。活躍している生徒はたくさんいるのではないか。具体的に発信していけるといいと思う。
＜武田委員＞
○山岳救助をしたいから白馬高校に来て、富山の大学に進学した生徒もいた気がする。そうした卒業生をピックアップして、話をしに来てもらうのもいいのではないか。
＜松澤委員＞
○グローバル講演会でオリンピアンなどの著名人の話を聞くのもいいが、白馬高校を卒業して自分で歩みを進めている人たちの言葉を聞くのも大事。
＜武田委員＞
○当時と現在では高校の様子も違ってきていると思う。「昔、自分たちはこうしていたが、今はこんなことができるから頑張ってほしい」などの言葉を聞くのもよいと思う。
＜白戸委員＞
○そうした機会を作れば、（卒業生も）「白馬に来たい」と思うのではないか。数年前に、卒業生が夏休みに後輩の面倒を見るなどのプログラムをしたらどうかと提案したことがある。当時は時期尚早だったが、今であれば、同窓会の力を借りて行うことは可能だと思う。
＜中村（義）委員＞
○名簿を作成する上で、個人情報を集めることに問題はあるのか。
＜松澤委員＞
○今つながっている人たちから情報発信をしてもらい、つなげていくことは可能だと思う。
＜草本委員＞
○インスタグラムなどでつながっていけるようにも思う。
＜白戸委員＞
○学校の現状を知らせてあげる、という形ならば問題ないのではないか。
＜白戸委員＞
○生徒募集の上でも、卒業生がどのように活躍しているのかを知るのは大きい。卒業して 10 年、20 年経ってから初めて、その当時の教育がどうであったかが分かる。卒業生がどんなことをしているのか、卒業後の進路を中学生に伝えたりするのも広報的には有効だと思う。
＜草本委員＞
○資格取得に関して。「全体の 30%が卒業時までに CEFA A2 レベル（英検準２級）相当以上の英語力を身につけることめざす」とあるが、もともと英語科ベースで国際観光科ができ、インバウンドの影

響もあり、生きた英語が学べるというのが強みだと思う。「英語が話せるようになる」のは、保護者に対して大きなセールスポイントになる。生徒たち自身も興味のあるところだと思う。「資格が取れる」ということが（生徒や保護者に）刺さるのか、「外国人と生きた英語を学べる」ということがいいのかは分からないが、うまく英語を強調し、「英語を話す機会があって身につけられる」というのが目に見えるといいのではと思う。地域の特性も生かして、活用していけるといいと思う。

＜相沢委員＞

○寮費の保護者負担について。寮費負担を上げることはできないのか。

＜北村委員＞

○前年度、検討したと聞いている。できれば今年度中に生徒募集が始まる前に決定しておきたい。物価、人件費の上昇を考えると、寮費を上げることも検討していく必要がある。試算では７万円という数字も出ているので、今年度中に検討してきたい。

＜白戸委員＞

○本日出た話が今年１年、あるいは２年、３年かけて具体的になるように、委員会の中でも考えていかなければならないと思う。「(高校に）やってほしい」ではなく、委員会として「できることがあればやる」ということを次回以降も考えていきたい。

＜石川校長＞

○無理のない範囲で卒業生の情報も活用していきたい。名簿については同窓会長と相談しながら決めていきたい。

○「資格取得＝英語力」というのは、指標としては弱いと思う。資格が取れればそれでいいわけではなく、どれだけ外国人とつながったのかだと思うので、今年度はそうした企画の可能性も探っていきたい。せっかくの環境を生かさない手はないので、やり方についてはそれぞれの知恵をいただきながら、共有して取り組みたいと考えている。

(6) その他

＜中澤事務長＞

○中間改修工事の進捗状況の説明。令和６年度に設計完了、７年度に入札、工事の本格化、２年かけて完成予定。教室のある校舎のみの改修となり、改修中は空き教室を使いながら進めていく。改修対象は高校の意見を汲み取り、トイレの改修、窓ガラスや建具の入れ替え、壁の断熱化、床の張替え、天井・壁の塗装、電灯の LED 化等。工事期間中は代替教室として特別教室棟などの空き教室を使用。そのため、令和６年度に特別教室（物理質や調理室等）にも冷房機器をすでに設置。極力学習の支障にならないように生徒自身が保護者とも情報共有して、理解をいただいた上で取り組んでいく。

(7) 県教育委員会より

＜武田企画幹＞

○「校舎がきれいな学校に行きたい」、「トイレが汚いからこの学校に行きたくない」などの声が中学生からもあがっている。中間改修で校舎がきれいになると、全国募集のみならず、地元の白馬中・小谷中の生徒にもＰＲできる強みになると思う。

○寮費の負担、部屋の狭さなどの課題がある中で、県でもようやく補助を少額確保できた。今回の補助も寮生が増えた分だけ補助金が増える仕組みになっている。今後も県が中心となって支援できればと思う。

(8) 閉会の言葉

以上、第１回学校運営協議会は終了。